

来春事業化スタート・骨子固まる

平成20年4月に開始された高知大学との共同研究は、平成22年4月をもって終了し、いよいよ来春事業化がスタートします。閉鎖循環式陸上養殖は初期投資が高価なため、事業化が困難とされていましたが、平岡雅則氏(高知大学海洋生物教育センター准教授)が開発した、海洋深層水による海藻の孢子集塊化法の出現にて事業化の方向へ進んできました。

即ち、JIFASが当初から研究開発を行ってきた、オーストラリアのアワビ養殖技術と海藻の組合せによる「複合循環式陸上養殖システム」です。

本システムは3年半から4年で設備消却を終了し、損益分岐点に達する極めて有望な事業です。従来方式と異なり、漁業に全く素人の方でも運営できる、シンプルなシステムです。

即ち、従来の「感と経験」に頼ることなく、科学的データに基づいて運営される画期的で、極めて有望な産業といえます。

このたび、四国電力、三菱電機殿等の協力を得て、更に安心・安全なシステムを構築し、世界の最先端技術の完成が目前に来て
います。

基本設計もほぼ完成し、
来春4月の最終データの収集を待つばかりです。

本システムは、全国各地に小規模システムの普及活動を行い、地産地消を基本として地域の活性化に貢献していくことを当初からの目的としています。

すでに、幾つかの地域から引き合いをいただき、第1号プラントの建設が期待されております。

